



国民春闘共闘

第19号

2022年3月15日

国民春闘共闘委員会

〒113-8462 東京都文京区湯島2-4-4 全労連会館
☎ 03-5842-5621 FAX 03-5842-5622

3・10全国統一行動

生活まもる大幅賃上げを！ 各産別・地域でストライキ含む統一行動

国民春闘共闘委員会は3月10日、全国統一行動に取り組みました。前日9日の集中回答日で、要求からは程遠い低額回答や回答延期に対して、組合員から「労働者の生活を考えていない」「生計費原則で賃上げを」と怒りの声があがり、JMITUや日本医労連など様々な労働組合がストライキに決起したほか、全国各地で職場集会やデモ、宣伝行動など多様な行動を展開。「大幅賃上げ底上げ」「全国一律最低賃金1500円」「ケア労働者の大幅賃上げ」、さらには「ロシアはウクライナからの即時撤退」等を訴え、社会的に労働組合の存在を大きくアピールしました。



JMITU 全国46支部がストライキ

JMITUは第一次統一ストライキ日として全国で45支部分会がストライキに決起したほか、昼休みや就業後の抗議集会、門前宣伝など不誠実な回答への抗議と大幅な回答上積みを求める行動を展開しました。埼玉、東京東部、同西部、同南部、同北部、京滋、大阪、兵庫の8地本・地協ではリレーストライキが行われました。通信本部の各支部、長野、千葉、神奈川、愛知などでも、それぞれの職場でのストライキ集会を行ないました。

東京北部地協リレースト

業績ではなく私たちの生活まもる賃上げ、時短を一鈴木シャッター支部が低額回答に怒りのストライキ

鈴木シャッター支部に対する会社の回答は5600円（昨年比+200円）と低額、東京地本の支部平均を下回っています。支部は怒りを込めてストライキ集会を行いました。相沢書記長は、「食品もガソリンや電

気・ガスも値上がりしていることから、私たちは会社に対し、業績ではなく私たちの生活や世間の感覚に合った賃上げ回答を求めてきた。業績も下期は好調で大きな期待を持っていた。職場の怒りは大きく、昨日の団体交渉後の集会で12時30分から終業までのストライキを決めた。来週までどれだけ効果的なことができるかが勝負だ」と強調しました。

組合員が次々にマイクを握り、「私たちの生活は今が成立しなければ将来もない。ゆとりある生活のため会社は要求にこたえてほしい」「食料品の値上げが生活を圧迫している」「育児、介護、家事の疲れを癒し活力を生む時間が必要だ。労働者と家族のために時短を実現してほしい」「コロナ対応で例年以上の支出増になっている。例年の賃上げ額では穴埋めできない」「年老いた母の生活をサポートするため、仕事の後に買い出しやお風呂の準備などを行っている。時短を実現し生活に余裕が欲しい」など、生活実態と要求を訴えました。支部長の菊池さんが「要求実現までJMITU・全労連とともにたたかう」と決意を述べました。

全労連の川村副議長が「皆さんの決起が全体を励ましている」「困難があればすぐに労働者の賃上げを抑制するくり返しが日本経済、会社の成長を妨げている。いつまで同じことを続けるのか。労働組合がたたかわなければ賃上げはないことを胸に刻み、生活改善できる賃上げと、人間らしく生活できる政治の転換を求め、ともにたたかきましょう」と訴えました。

たった一人の組合員が掲げる JMITU の旗が現場労働者を激励—太陽ステンレス支部

太陽ステンレスは昨年、定年退職により組合員が一人になりました。役員経験ありませんでしたが、「自分はこれまで JMITU に守ってもらった。JMITU をなくすわけにはいかない」と、JMITU の旗をまもり続けています。今春闘では3万円の賃上げなど13項目からなる要求書を提出。会社はコロナを口実に提出交渉も回答確約交渉も応じないままでしたが、回答指定日前の3月4日、昨年を2800円上回る8700円(3.17%)の回答を示しました。

12時40分から行われたストライキ集会には、リレースト激励団とともに地元の入間地労連からも4人が応援に駆け付けました。JMITU 地域支部役員が交渉経過を報告。「昨今の頃は『役員経験もないたった一人の組合員に、一体何ができるんだ』という目で見られていたと思う。しかし一年たって、JMITU の旗があるから会社が労働者の要求を無視できないということを多くの労働者が感じている」と述べて、彼の奮闘をたたえとともに、「8700円でいいわけがない。次回3月15日の団交では大幅賃上げで生活改善ができるよう皆さんと共に頑張る」と決意を述べました。

最後に組合員本人がマイクを手に「1人組合員でも要求書を出し、回答を引き出すことができた。皆さんと一緒に行動することが自分を守ることと確信し、春闘をたたかっていきます」と決意を述べ、大きな拍手に包まれました。

70億円の内部留保を労働者の賃上げにまわせ—東洋精機支部が半日スト

東洋精機製作所では9日に示された会社の一次回答に対し組合員の94%が不満とし、10日8時半から12時までの半日ストライキを決行しました。ストライキ集会で白川支部長は「物価高がロシアのウクライナ侵攻によりさらに強まるなかで迎える例年のない春闘だ。毎年3億もの内部留保を積み上げている会社が、



前年通りの様子見回答をするなど許せない」と述べ16日の再交渉にむけ、団結強化を訴えました。

JMITUの三木委員長が激励あいさつ。「消費者物価指数が2%を超えており5000円以上のペアがなければ生活を維持できない。昨年暮れに結成された大阪の大和工業では初の春闘で一律3000円賃上げと女性組合員などの格差是正など平均9000円以上の回答を引き出した。労働組合の真価が発揮されている。若い人材確保は経営の重要課題だ。初任給を8000円引き上げたところもある。若い人がイキイキ働ける職場を作るためにも、経営者に私たちの声を届けよう」と述べました。

JMITU 北部地協の菊池議長は「会社は先行きが見えないと言うが、労働組合は経営環境を整えるために経産省や厚労省にも要請して頑張っている。会社も頑張ってもらわなければ会社の先行きは見えるようにならない」と述べました。東京春闘の白滝事務局長は、「金属機械産業での技術は、軍需への転用がすぐできる。かつての戦争でこの地域の工場は爆撃された。そんなことは2度と繰り返してはならない」と平和を守ろうと訴え、「この10年で日本の賃金は8%も下がっているが他の国は1.3倍になり、韓国では1.5倍にもなっている。多くの労働者の団結で賃上げを勝ち取ろう」と激励しました。

建交労・京王新労 終日ストライキ

「残業の多さ」で評価する異常で危険な制度を告発 労働組合の誇りをかけて決起



組合攻撃とたたかう建交労・京王新労は、22春闘で大幅賃上げを勝ち取り、安心してらせる社会の実現、長時間労働の是正を求めて、13人が終日のストライキにたちあがりました。

11時から始まった京王電鉄本社前の集会には、当該の建交労、東京地評、三多摩春闘会議、航空労組連、東京医労連、自治労連、全教、国公労連など40人が支援に駆けつけました。

京王バスでは、第2組合が労働組合の役割を放棄し、残業の多さで評価する異常で危険な制度導入や、賃金引下げ、スト破りなど、たたかう労働組合への攻撃がおこなわれてきました。京王新労執行部は「私たちは会社いいなりの労働組合ではなく、国民、労働者の要求をたたかって勝ち取る労働組合の誇りをもってストライキに立ち上がった。報復があるかもしれないが負けるわけにはいかない。コロナ禍だからこそ声をあげよう」と力強く決意表明しました。

全労連の布施事務局次長がスト支援の連帯あいさつでロシアのウクライナ侵攻に触れ、「世界の労働者が連帯の声をあげ抗議している。医療・介護労働者のエッセンシャルワーカー、公共サービス・公共交通に従事する仲間もだ。国民の生活を支える大事な機関」とエールをおくりました。

**大幅賃上げ・底上げで
誰もが希望もてる公正な社会を
“労働組合でいっしょにつくろう”**